



東京都社会福祉事業団

事業団通信

Vol.6
平成29(2017)年
3月発行



八王子福祉園 らら 井上康子様
第31回八王子市障害者文化展努力賞受賞作品「西年にハイタッチ！」

理事長挨拶



社会福祉法人
東京都社会福祉事業団
理事長 白石 弥生子

平成 28 年度も最終コーナーに入りました。昨年 10 月、事業団が初めて自力で施設建設を行う「希望の郷東村山（仮称）」の工事が着工しました。建設費が高騰する中、借入金も当初の予定から増加しており財政面の厳しさを感じつつも、工事自体は順調に進んでおり来年 4 月の開設に向け新しい施設への期待に胸をふくらませています。

昨年 7 月のやまゆり園の事件は、私たち福祉施設に関わるものに、「人権擁護」について真剣に向き合うことを突き付けました。事業団の経営理念の第一は「利用者本位のサービスを徹底します」ですが、この基底に人権擁護があります。事業団施設の入所利用者約 1400 人（障害・児童養護計）ひとりひとりに対して「その人本位」の具体的内容を、支援する職員が真剣に考え、共有しているだろうか、その支援を実践できるスキルを備えているだろうか、また職員がそうできる環境整備を法人が推し進めているだろうか。職員確保の厳しさが増していますが、人材育成、人材確保、風通しのよい職場の実現に力を尽くしていきます。

児童養護施設にとって今の時期は節目の季節です。私は毎年 S 学園の卒園・卒業を祝う会に出席しますが、子どもたちの少し緊張した、でも晴れやかな姿を見て、また職員の子どもたちに注ぐ何とも言えずうれしそうな姿を見て、とても幸せな時間を共有させていただいています。

新しく始まる 29 年度も、事業団の各施設において利用者の方々の日々の生活が笑顔に満ちたものになることを願い、職員とともにがんばりたいと思いますので、関係者の皆様のご指導ご協力をよろしくお願いいたします。



船形学園は、館山湾（鏡が浦）を眼前に置き、風光明媚で温暖な気候に恵まれた土地で運営されています。

船形学園は、明治42年（1909年）に虚弱児のための施設として開設されました。途中、関東大震災による被災や第二次世界大戦中の疎開で一時的にこの地を離れざる様々な事情で家庭にいたることができなくなった子どもたちが入所しています。この船形では未だ地域の人々のつながりが強く、地域全体で子どもたちを育てて子どもたちは多くの大人たちに見守られながら成長しています。

支援方針

①子どもたちが安心して成長できる施設環境の提供

豊かな自然環境のもと、児童一人ひとりの意思や個性を大切に、児童が安全で安心した日常生活を送る中で、心身と基本ルールや共同生活のマナーを身に付け、将来に向けた自立の意欲や生活力を育てていくことを目標に施設運営を行います。

②リスクマネジメントの充実

日常の些細な事故情報からも注意深く事故防止の課題を読み取るよう心掛け、事故やヒヤリハットの状況に応じた組織的リテラー対策、感染症・食中毒の防止、災害時の対応についてはマニュアルの整備や訓練により、迅速に対応できる体制を

③人材の育成・働きやすい職場環境

外部研修や園内研修を組み合わせることで、日常的なOJTを充実させ職員の資質向上を図ります。また、毎朝職員会議を開催するなど、職員同士がより多くの話し合いの機会を確保することによりコミュニケーションのこうした取り組みを通して、職員間の連携による施設支援力の向上と職員が心身ともに健康で、意欲を持って生き生きと働

世界大戦中の疎開で一時的にこの地を離れざる様々な事情で家庭にいたることができこうという雰囲気の色濃く残っており、もに健全な成長を遂げるとともに社会の

対応に努めています。また、情報セキュ整備しています。

朝行う朝礼の報告内容を充実させるとと活発化と情報の共有化を図っています。き続けられる風通しの良い職場づくりを

Staff Interview

「中学生との関わりとこれから」

私は、事業団に入職し、船形学園に配属され3年目になります。寮のローテーション勤務に入りながら、中学生担当の業務も行っていきます。中学生担当の業務は、月1回地元中学校と学園の子どもたちの状況を共有する連絡会や、PTA活動（バザーや運動会の売店、奉仕作業等）などで、地域の方々とも連携するよい機会にもなっています。園内では、子ども達と中学生の活動計画を立案し、今年BBQを園内で実施しました。また、中学三年生の進路指導を行うとともに、学年別に月2回ずつの学習会も行っています。

少しずつ中学生担当の業務にも慣れてきましたが、寮の業務と並行して行うので、毎日悪戦苦闘しています。しかし、周りの職員の方々に助けられてここまでやってこられました。

中学生は少しずつ大人に向かって成長をしています。職員がその手助けをすることで心身ともに健やかに成長して欲しいと思っています。これから地域社会の一員として育てていく子どもたちの自立に向けての支援や、生活場面での支援を行い、子どもたちとともに自分自身も成長できればと思います。



養護係 寺田 涼一さん（3年目）

グループホーム「かしの木ホーム」の取組

船形学園ではグループホーム（以下GH）を1つ運営しています。GHでは本園と連携しながらも食育や地域との関わり等、GHならではの

主な取り組みとして子ども達と一緒に料理や買い物を行い、食材の選び方や調理方法、お金の使い方等を体験しながら学べる機会をつくっています。まは季節の野菜を育て、子ども達が自主的に水をあげたりと成長を楽しめます。平成28年はきゅうりとスイカに挑戦し、きゅうりは沢山収穫しました。調理して皆で美味しく食べるのはもちろん、採れたてを丸かじり材そのものの形や味に触れることで残さず食べようという意識が自然の大切、について少しずつ身につけてきているように感じています。

また地域とのつながりも大切にしている、本園と異なる地区に立地の属する地区で様々な行事に参加しています。夏には祭礼が行われ、叩いたり、一日中山車を引いて練り歩いたりしました。地域の方から頂いたり、子ども達が遊んでいると優しく声をかけてくださったりしわりを通して挨拶が自然と行える子どもの姿が見られたりします。"人に出ると必要なことであり、子ども達が生活の中で学べるようにと思

そして毎月1回子ども会議があり、その中で「良いこと探し」という取り組みを行っています。平成28年はセカンドステップの要素を取り入れて行いました。セカンドステップとは児童間トラブルが起きた際に暴力のための教育プログラムです。GHでは「思いよく」ということを目標に、1人ずつ他の子ども1ヵ月を振り返って考え、発表してもらうことからはじめはなかなか意見が出ず、誰かが発表してす児童もいましたが、回を重ねていくうちに出た、きちんと話を聴く態度もとれるよた。今までなんとなくで過ごしてきたことがして誰かの思いやりに気づいたり、自分も相を生活の中で自然に身につけてきたように感じ、これからも子ども達ののびのびと成長で過ごせるような支援を行なっていきたいと思います。



養護係 表 夏生さん（2年目）



東京都船形学園の一年



人材育成の取組

平成 28 年度東京都社会福祉事業団施設間交流会 (児童養護施設)

「子供の権利を守るために～不適切な関わりをしないために～」

- ①開催日 平成 28 年 11 月 8 日 (火) 15:00 から 17:00 まで
- ②会場 東京都社会福祉事業団本部
- ③研修講師 東京都福祉保健局 少子社会対策部計画課 安原 理恵 様
- ④参加者 事業団児童養護施設職員 50 名 (職種混合)
- ⑤目的 (ア) 共通の検討課題に対して議論し、処遇の向上を図る (イ) 施設間でグループ討議し、法人内の連携を深める
- ⑥研修内容 (ア) 講義 ①「子どもの権利を守るために」、②「被措置児童虐待の定義」、③「具体的な虐待行為について」の3つを具体的に話していただきました。
また、なかなか職員の労力がすぐに成果に結びつきにくいこと、または見えづらい性格である仕事がゆえに、精神的にも肉体的にも疲弊してしまうのが現状であり、虐待は起こり得ることだと、より危機意識を持つことになりました。
しかし、本来のあるべき職員の資質や専門性といった責任から免れることはできず、子供の生い立ちに対する共感や、施設生活を強いられた渦中にある心情の理解をして展開される支援が、子供の権利を守ることに繋がるとのお話でした。
(イ) グループワーク 参加した6施設の職員を6グループに分け、自己紹介をしてから各園での権利擁護の取り組みを紹介し合いました。この際には、他園の取り組みを知る事だけでなく、プロセスを何うことで様々な職員、またはその園が大切にしていること等を知るきっかけになりました。また、2つの事例について各グループで検討した後に、発表してもらいました。
- ⑦まとめ 毎年、自立支援担当者の活動の1つに施設間交流会を位置づけています。年度当初、児童養護施設での課題を出し合い、今年度のテーマを決定しています。
交流会を通じて、各施設の取組を聞くことができ、自分の施設の取組を振り返り、新たなものを導入する契機になっています。
今回、2時間の交流会では時間が足りず、その後の懇親会ではとても和やかな雰囲気の中で職員間の親睦を図りました。
勝山学園 自立支援スタッフ 与田 翼 (4年目)

事例研究発表会

当事業団では、職員の支援技術の向上等を目的として、障害者(児)施設、児童養護施設それぞれの施設での取組事例を題材とし、事例研究発表会を毎年開催しています。

○障害者(児)施設

1月31日(火)、野方区民ホールにて、平成28年度障害者(児)施設事例研究発表会を開催しました。

午前は、ルーテル学院大学教授/社会福祉法人おおぞら会理事長の西原雄次郎氏から「虐待の無い支援をめざしてー皆で知恵を出し合ってー」と題して、一人ひとりの利用者を大切にした支援、虐待防止に向けた職場の仕組みづくりや取組方法について、福祉現場に即した具体例を交えながらご講演いただきました。

午後は、七生福祉園、千葉福祉園、東村山福祉園、日野療護園、八王子福祉園の各職員による事例発表を行い、「iPadを使用した利用者支援・業務効率化」、「与業業務の見直しと改善への取り組み 他職種の連携・協力を通して」、「介護予防プログラムにおける日常生活動作の維持と余暇時間の充実」、「自己肯定感の低い知的障害を持つ利用者へのアプローチについてーグループホームきらり、生活介護じゃんぶ Aさんの場合ー」、「頸髄損傷を基礎疾患に持つ利用者の褥瘡に対する取り組み」、「看取りケアの実践事例についてー看取りケアの振り返りによって見えたものー」の計6事例を発表し、西原先生からアドバイスをいただきました。

当日は、民間施設の職員も含め約160名の参加があり、活発な質疑応答も交わされました。参加者からは、「障害者の人権について改めて考えさせられた。」「現場で試行錯誤しながらも前向きに取り組んでいる様子が伝わってきた。」「現場に持ち帰り、活かしていきたい。」といった声が寄せられるなど、有意義な発表会となりました。

○児童養護施設

2月22日(水)、角筈区民ホールにて、平成28年度児童養護施設事例研究発表会を開催しました。

午前の基調講演では、大正大学心理社会学部教授の玉井邦夫氏をお招きし、「虐待を受けた児童への生活援助の具体的実践」と題してご講演をいただきました。最新の知見や玉井先生がこれまで経験された事例に基づいて、感情・感覚・思考の繋がりを柱にした支援の重要性などについてお話いただきました。

午後は引き続き玉井先生に助言者としてご登壇いただき、事業団施設より発表を行いました。始めに石神井学園で実施している「連携型専門ケア機能モデル事業」の報告を行いました。生活支援・医療・教育が一体となった「総合環境療法」による支援の実践について、具体的な事例を取り上げ、寮職員、心理職員、教員、医師がそれぞれの立場から発表を行いました。

続いて事業団施設より、それぞれ「集団適応が難しい女兒に対する高校進学等の支援」「医療的ケアが必要な児童に対する社会的養護とは～I型糖尿病児の支援を通して経験したこと～」「重複するハンディと課題を抱える児童の個別支援～自殺企図から生きる意志の芽生えまで～」の題で発表を行い、玉井先生からは実践的なアドバイスをいただきました。

当日は民間施設職員や特別支援学校教職員など、200名を超えるご参加をいただき、児童の支援をめぐる問題への関心の高さが窺えました。参加者からは「被虐待児の行動や思考について理解を深めることができた」「連携の重要性について改めて認識した」「具体的にわかりやすく、自分が支援している子どもの姿が目に見えようだった」といった声が寄せられました。

今後も、事業団施設が取り組んだ事例を事業団内外の福祉施設の共有財産とし、支援技術の向上に活用していくため、事例研究発表会を開催するとともに、先駆的な取組みや困難事例等に積極的に取り組んでまいります。



人材確保・育成委員会

事業団では、今後の事業団運営を担う人材を計画的かつ効果的に確保・育成していくため、各園の人材育成に携わる事業団職員で構成する「事業団人材確保・育成委員会」を設置し、OJTの推進、研修の充実、採用PR事業などをはじめとした人材の確保・育成に関して企画・検討を行っています。

今年度も各園から2名の委員を委嘱し、「OJT推進部会」「研修部会」の2部会を設け、様々な検討を進めてきました。今回はその様子を各部長より報告してもらいます。

研修部会

研修部会では、正規職員(3年目)研修の企画及び実施と、事業団研修の見直し等について1年間取り組んできました。

正規職員(3年目)研修の企画にあたっては、私自身が昨年度受講した研修ということもあり、「受講生が求めるものって何だろう」「研修を通して受講生に求めるものって何だろう」「事業団をより良くしていくために必要なことって何だろう」を繰り返し自問自答することを心掛けました。研修当日は受講生を含めた全ての方々の協力のおかげで、無事に実施することができました。受講生からの評価が良かったことに一安心したと同時に、今後事業団の利用者支援の中核となっていく受講生が何かを考えたり、行動する際のきっかけの1つや、気付きのサポートができていくと良いなと願いました。

事業団研修の見直しについては、研修毎の評価に目を通し、次年度に行う研修をより良いものにできるよう検討しました。

私自身、人材確保・育成委員会への参加が3年目である今年度、研修部会の部長に任命されたことで、当初は不安な気持ちで一杯でした。しかし、委員の皆様等の支えもあり、1年間を乗り切ることができました。活動の中で、研修を作り上げていくことの難しさや奥深さを改めて感じましたが、それ以上にチームで試行錯誤を重ねて同じ目標に向かうことに楽しさや喜びを感じました。自身の課題に気付くことも多くあり、研修を作ることも研修のように感じ、得る物が非常に多い1年間でした。

この経験から得たものをしっかりと活かし、職場で積み重ねと努力をし、力を発揮していけるようにしていきたいと思っています。



研修部会長
八街学園
平山翔太委員 (5年目)



OJT 推進部会

今年度のOJT推進部会では、採用内定者交流会の企画・運営を中心に活動をしてきました。交流会は、新たに仲間になる内定者の皆さんと交流を図り、4月からの不安を払拭し、一人でも多くの内定者の方に安心して働いていただけるように、楽しく堅苦しくない交流会を目指しました。

12月の交流会当日は、とても緊張した様子で受付を済ませた内定者の皆さんも、交流会が進むにつれて、笑顔が多くなり、それぞれが楽しそうに会話をしている姿がとても印象に残っています。

近年、事業団では東京都の派遣職員の退職に伴った、大量採用をしており、人材確保、育成が急務になっています。その中の一つの取組みとして行われている交流会は、今年で3年目に なります。

3年前は手探り状態で始まった交流会も、今ではより良い形になってきて、内定者の皆さんからも「参加できて良かった。」「現職から直接話を聞いて不安が軽減した。」「という意見が多く聞かれました。

私自身今年で、事業団8年目となり、OJT推進部会の部長に任命され、とても良い刺激になり、良い経験ができました。今年は周りに支えられて自分自身がとても勉強になった一年でした。

今年の委員会のメンバーで検討したことが来年度以降も活かされ、今後の事業団の実になっていくように精力を注いでいきたいと思っています。



OJT 推進部会長
千葉福祉園
吉田和樹委員 (8年目)



1年を振り返って

東村山福祉園

Q1. 今担当している仕事

私が所属している9棟には主に重度・最重度の障害をもつ中学生から高校生までの子ども達が入所しており、その子ども達の生活支援を行っています。利用者様一人ひとりと向き合い、その方に合った支援方法で充実した生活が送れるように心掛けて業務に取り組んでいます。

Q2. 職場のいいところ、やりがい

9棟は利用者・職員共に毎日明るく元気に生活を送っています。そのため職場の雰囲気も明るく、利用者様の笑顔が沢山見ることができ、支援方法のことで悩んだり、不安になることもありましたが、先輩の職員さんや利用者様の笑顔に支えられて毎日頑張ることができています。また、9棟は児童棟ということもあり、成長期真っ只中の子ども達ばかりです。子ども達は日々成長しており、その姿を見ることが大きなやりがいの一つになっています。

Q3. 1年を振り返って

1年を振り返ってみると、とてもあっという間に過ぎていきました。それはとても楽しく仕事をさせていただいたからだと思います。入社してすぐは分からないことだらけでしたが、先輩の職員さんに優しく丁寧に仕事を教えていただきました。その後も分からないこと、不安なことがあると気軽に相談させていただきました。利用者様への支援において自分なりに考え、様々な挑戦をさせていただいたことで、毎日がとても充実した日々になりました。来年度は2年目になり後輩もできると思いますが、初心を忘れず日々仕事に励んでいきたいと思っています。



東村山福祉園
井出 翔悟さん
(平成28年4月入職)

新規職員へのメッセージ

井出さんは、明るく・元気で職場内での、ムードメーカーで親しみやすい職員です。

同い年ということもあり職場でもプライベートでも仲良く、友達でもあり、先輩後輩でもあります。

4月に入ってきた時に比べて、今では職員として頼りになる存在となっています。次は、井出さんが先輩職員になります。新しく入ってきた職員さんに寄り添いながらサポートできるような職員さんになってくれたらと思っています。これからも一緒に頑張っていきましょう!!!



東村山福祉園
長津 隆太さん
(4年目)

石神井学園

Q1. 今担当している仕事

私は小・中学生の男女8名が生活する寮を担当しています。入浴、就寝対応や学習支援などの直接的なことから、洗濯・掃除、土日の朝食作り、関係機関との連携などの間接的なことまで様々な業務から子どもたちの生活を支援しています。忙しさに追われることもありますが、空いた時間に子どもの遊びに加わったり、コミュニケーションをとったりすることを大切にしています。

寮以外では小学生対象の「子ども会」に所属し、遠足やキャンプ等の行事の運営に携わっています。

Q2. 職場のいいところ、やりがい

優しく、相談しやすい先輩方がたくさんいます。どんなことも気軽に質問することができ、時にはアドバイスをくれるので心強いです。また、研修の機会が多いのも特徴です。現場にいると煮詰まってしまうこともありますが、研修では様々な視点から子どもを見つめることができ、支援を振り返る場になります。

Q3. 1年を振り返って

仕事の中で自分が行ったことがすぐに結果として表れることはほとんどなく、最初の頃は同じことを繰り返す毎日の中で何ができているのかと悩むことも多かったです。しかし、一年を振り返り、初めて起案を立てた外出で子どもが思いっきり楽しんでた姿や、何度声をかけてもできなかったことが少しずつできるようになった姿などを思い浮かべると、小さな作業や関わりも少しは子どもたちの役に立ち、成長に繋がっているのかなと感じます。日々の積み重ねを大切に、根気強く、2年目も頑張りたいと思っています。



石神井学園
中村 公巳さん
(平成28年4月入職)

新任職員へのメッセージ

4月、笑顔が可愛らしい、小動物のような中村さんに出会ってからもう1年が経つんですね。些細なことでも立ち止まって考え、時には相談し、ひとつひとつの支援を大切にしている姿が印象に残っています。

当初は戸惑いや不安も多くあった様子で、泣いたり、悩んだりしていましたね。今では芯の強さや意思の固さを感じられ、頼もしく思っています。心配性なところは今も変わらず…ですね。悪戦苦闘しながらも子ども達と真摯に向き合っている姿を私たち職員も子ども達もみえています。これからもチームの一員として、仲間として、一緒に頑張っていきましょう。



石神井学園
川上 瑛子さん
(5年目)